

守山まるごと活性化 議事要旨

作成日：平成28年12月5日

作成者：足立

会議名： 守山まるごと活性化まつりプロジェクト第18回 会議

日時：平成 29 年 5 月 22 日(月)

場所：吉身会館 小会議室

出席者：まつりプロジェクト推進員

出席者(行政)：吉身会館 竹村館長、足立

出席者(小学校)：吉身小学校 森川校長、立入が丘小学校 富永校長

使用資料：別紙のとおり

議題

- ・ 第39回学区民のつどい内容検討
- ・ 吉身学区イベント・たからものマップの内容検討

会議要旨

内容

第39回学区民のつどい内容検討

吉身小学校長、立入が丘小学校長に協議に参加してもらい、小学生にとのよな形でつどいに参加してもらったかを協議した。

(吉身校長) 子どもに1から事業を考え、運営してもらう、というのはハードルが高い。こちらからいくつか案を提示して、子ども達が選ぶ、という形にするほうが良いのではないかな。

(委員) 子どもたちも手伝いばかりしてもらっては悪い。スポーツコーナーであれば子ども達に楽しんでもらいながら手伝ってもらえると思う。

(吉身校長) 子どもたちも出店のものを食べたいし、遊びたい。だから1日手伝い、ではなく時間を区切ってしてあげたほうが参加しやすいと思う。

(立入が丘校長) スポーツコーナーだけでなく、各自治会のブースも手伝いの選択肢に入れておけば「こんなブースやコーナーがあるのか」と子ども達に知ってもらえきっかけになる。

(委員) 今年度は初めての試みなので、各ブースの手伝いを主にしてもらおう。そして今後、ひとつのブースを子ども達に担ってもらえるようにしていく。

(委員) 1時間手伝いをしてもらったら1時間休んでもらう、朝の準備だけを手伝ってもらうなど、しっかりシフトを作って、子ども達につどいを楽しんでもらう時間をしっかり確保することが大切だと思う。

(委員) 各ブースによって手伝いの度合いも違うから、シフト作りは各ブース担当に委ねられると思う。

(委員) 子ども達にひとつのプログラムを任せる、というのも一つの案だと考える。

(委員) 今年度は最も簡単な、はじめやすいところから始めても良いかと思う。例えば玉入れの運営手伝いであれば、子どもたちも何をすればいいかイメージしやすいし、参加しやすい。かつ追加の準備も不要であるし。

(立入が丘校長) 立入ではクラス学級というものがあり、クラス単位でゲームをするブースをつくり、運営を行う、という取り組みをしている。お客さんは他学年の子どもたち。だから、つどいでブースの手伝い等をする、となっても楽しんでやれるのではないかな、と考える。

→ スポーツ、自治会など、どのブースを手伝うか子ども達に選んでもらう。

→ 各自治会で手伝いに参加してもらえる子どもの数に定員を設ける。

→ 手伝いに参加してもらえた子どもには報酬をわたいてはどうか。

→ 手伝いの依頼をかけるのは高学年(4年生～)

吉身学区イベント・たからものマップの内容検討

今後のスケジュールと最終校正をおこなった。

スケジュールは今回の会議ででた修正等をふまえたマップ(案)を6月自治会長会で提示、自治会長からも意見をいただく。

→ 次回会議で完成品を見てもらい、写真写りや用紙の質感等を推進員の皆さんに確認いただく。

→ 印刷発注。印刷に要する日は二週間程度とのことなので、7月中に印刷し、8月初旬に全戸配付をおこなう。

決定事項	次回会議 平成29年6月26日(月)19時30分から
次回以降について	